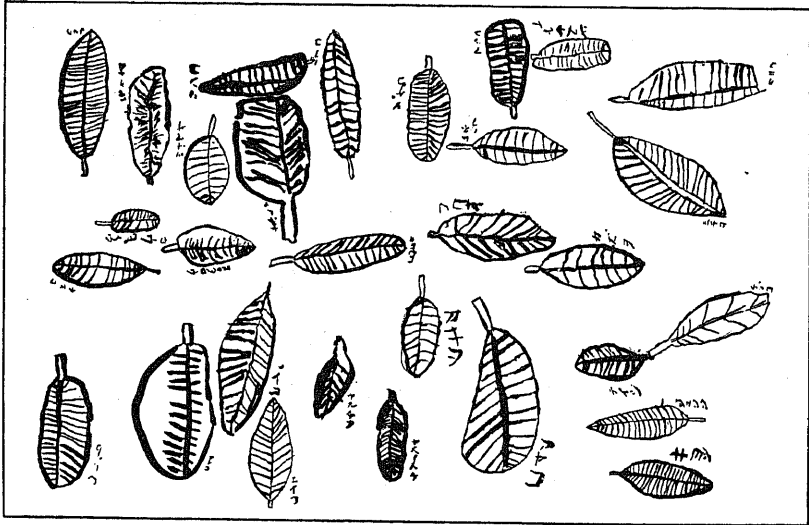


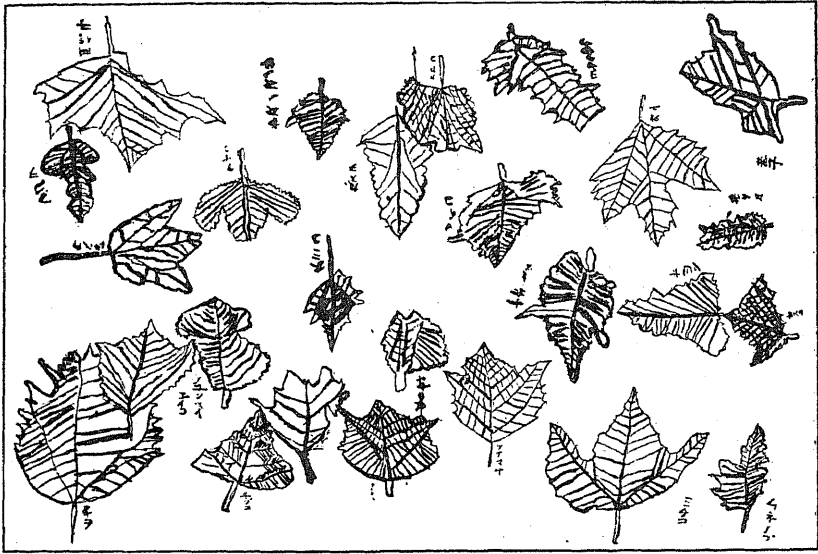
# 木の葉を観て描く

新庄よしこ

幼稚園へ泰山木の枝を二本持つて来て下さった方がある。大きく開いた白い花、その甘い香り、厚みのある濃みじりの葉なさを二三日楽しんだ。一つの花は咲き崩れてしまつたが、あまに残つた大きな蕾や葉は、水をかへた玻璃瓶にまだいき／＼してゐた。一枚の葉をこつて紙の上において見るに、その單純さが子供にもたやすく書き寫せそうに思はれて早速こゝろみたのがこの圖である。

まづ、何色でも淡い色のラシヤ紙を机の上に廣げておく。見よい位置にこの葉をおき、鉛筆で形をこらせる。その時、なか／＼筆が進まず、又はこの葉を全く違つたものになりそうに思へたら、そばからもつて大きくさか、よく観てさか、すぢはこゝ迄つゞいてゐるでせうなびこ口添へ





し、出来上るまじづかに鉛筆の上を毛筆でなぞらせる。かうして二三人づゝ描いて居るま、次々にそばに寄つて来るのであまから来た子は順が来る迄見せておく。かうして全部出来上つたものを見るま、一枚の葉が幼児一人づゝの心のようにそれゝ變化があつて面白い。

こんなこまをしたあまで、庭の木々を見なほして見るま、この年ごろの子供に、容易にうつしされるものま、なかゝゝむづかしいものまある。次には藤、さくら、つばき、樅、やつで、薦、やなぎ、いてふ、紫陽花なぎの中で鈴懸をかいて見た。

かうして観て描くま云つても、その木の名稱を覚えさせようまいふわけではない。いろゝゝの木の葉があるまいふこまを、手近にある二枚の葉でいくらか印象を深めたまいふ程度に過ぎないま思はれるが、私には大そう面白いこまであつた。